

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	プロスペラ学院ビジネス専門学校
設置者名	学校法人福寿

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養関係	外語キャリア科	夜・通信	660 単位時間	160	
商業実務関係	国際ビジネス科国際ビジネスコース	夜・通信	490 単位時間	160	
	DX ビジネス科DX・IT マネジメントコース	夜・通信	637 単位時間	160	
	就職スペシャリスト科	夜・通信	196 単位時間	80	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://prospera.ac.jp/public-information/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	プロスペラ学院ビジネス専門学校
設置者名	学校法人福寿

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://prospera.ac.jp/public-information/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	企業(株式会社)役員	R6.12.23～ R8.12.22	企画
非常勤	企業(株式会社)役員	R6.12.23～ R8.12.22	企画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	プロスペラ学院ビジネス専門学校
設置者名	学校法人福寿

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
【作成過程】 毎年度、学内会議にて授業科目の設定・講義内容の検討を実施する。その検討結果にもとづき、各科目を担当する教員がシラバスの作成を行う。シラバス作成には学内統一の様式を使用し、科目名・授業の目的・教員・年間単位時間・目標・授業計画・授業方法・評価の方法等を記載する。 【作成・公開時期】 シラバスは12月～3月に担当教員が作成し、3月に学内で確認し承認する。その後、シラバスを学校ホームページで公開する。	
授業計画書の公表方法	https://prospera.ac.jp/public-information/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
学生規則の細目において、成績評価方法を規定している。成績は学期ごとに算出する。各科目100点満点とし、シラバスにもとづいて、定期試験と平常点により総合的に評価する。成績は、S：100-90点、AA：89-80点、A：79-70点、BB：69-60点、B：59-50点、CC：49-40点として、学生に通知される。40点以上を取得したものを合格とする。 不合格者には再試験等を実施し、合格基準を超えたものにC：再試験合格の評価を与える。合格基準に満たなかったものにはF：再試験不合格の評価を与える。 上記の評価方法については、学生規則をオリエンテーション時に学生へ配布して説明している。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
成績評価 において、G P A (Grade Point Average) を導入し、進級・卒業認定の基準として使用している。成績は、授業科目ごとに行う定期試験と平常点により評価する。 各授業の成績を 100 点満点として、S:100-90 点、AA:89-80 点、A:79-70 点、BB:69-60 点、B:59-50 点、CC:49-40 点、C : 再試験合格、F : 再試験不合格として、学生に成績を通知する。 各評価は以下のように既定の数値に置き換えて G P A を算出する。 S=4.0、AA=3.5、A=3.0、BB=2.5、B=2.0、CC=1.5、C=1.0、F=0 G P A は次の計算式によって求められる。 $\text{GPA} = \{ (S \text{ の科目数} \times 4.0) + (AA \text{ の科目数} \times 3.5) + (A \text{ の科目数} \times 3.0) + (BB \text{ の科目数} \times 2.5) + (B \text{ の科目数} \times 2.0) + (CC \text{ の科目数} \times 1.5) + (C \text{ の科目数} \times 1.0) + (F \text{ の科目数} \times 0) \} \div \text{履修した科目数}$ G P A の算出方法については、ホームページで公開するほか、学生規則へ記載しオリエンテーションで学生に説明する。上記のように設定した算出方法により、G P A を算出し、学生ごとに成績出席証明書に記載する。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://prospera.ac.jp/public-information/
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
プロスペラ学院ビジネス専門学校は、教育基本法に則り、学校教育法に従いつつ、人格形成と共に社会情勢に即応し国際的視野に立って、実社会に役立つ人材を養成することを目的とする。この教育目的にもとづき、下記に示す知識・技能・態度を習得していることを卒業の要件とする。 1 実社会で求められる専門分野における知識・技能を身につけている 2 国際的な視野に立ち、多様な背景を持つ人々と共同できるコミュニケーション能力を身につけている 3 「あなたがいてわたしがいる」という言葉に表される、他者を思いやり理解する態度を身につけている 上記の知識・技能・態度を身につけ、学則で定める就業年限以上在籍し、所定の単位時間以上の学習を修めた学生に対して、卒業を認定する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://prospera.ac.jp/public-information/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	プロスペラ学院ビジネス専門学校
設置者名	学校法人福寿

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://prospera.ac.jp/public-information/
収支計算書又は損益計算書	https://prospera.ac.jp/public-information/
財産目録	https://prospera.ac.jp/public-information/
事業報告書	https://prospera.ac.jp/public-information/
監事による監査報告（書）	https://prospera.ac.jp/public-information/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養分野		専門課程文化 教養関係	外語キャリア科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間		1,920 単位時間 /単位	240 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
2年		1,980 単位時間／単位	単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数
40 人		0 人	0 人	7 人	0 人		7 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年度、学習の到達度や就職状況、企業からのニーズなどを考慮して、学内会議にて、講義内容や授業方法の検討を行う。その検討結果にもとづき、各科目を担当する教員が年間授業計画（シラバス）の作成を行う。シラバス作成には学内統一の様式を使用し、科目名・授業の目的・教員・年間単位時間・目標・授業計画・授業方法・評価の方法等を記載する。 シラバスは 12月～3月に担当教員が作成し、3月に学内で確認し承認し、その後、学校ホームページで公開する。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生規則の細目において、成績評価方法を規定している。 成績は学期ごとに算出する。各科目 100点満点とし、シラバスにもとづいて、定期試験と平常点により総合的に評価する。成績は、S：100-90点、AA：89-80点、A：79-70点、BB：69-60点、B：59-50点、CC：49-40点として、学生に通知される。40点以上を取得したものを合格とする。

不合格者には再試験等を実施し、合格基準を超えたものに C：再試験合格の評価を与える。合格基準に満たなかったものには F：再試験不合格の評価を与える。 また、成績評価において、G P A（Grade Point Average）を導入し、進級・卒業認定の基準として使用している。 上記の評価方法については、学生規則をオリエンテーション時に学生へ配布して説明している。
卒業・進級の認定基準 （概要） 本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従いつつ、人格形成と共に社会情勢に即応し国際的視野に立って、実社会に役立つ人材を養成することを目的とする。この教育目的にもとづき、下記に示す知識・技能・態度を習得していることを卒業の要件とする。 1 実社会で求められる専門分野における知識・技能を身につけている 2 国際的な視野に立ち、多様な背景を持つ人々と共同できるコミュニケーション能力を身につけている 3 「あなたがいてわたしがいる」という言葉に表される、他者を思いやり理解する態度を身につけている 上記の知識・技能・態度を身につけ、学則で定める就業年限以上在籍し、所定の単位時間以上の学習を修めた学生に対して、卒業を認定する。 また、所定の単位時間以上の学習を修め、出席率が所定の基準を超えていることを学内会議で確認した学生の進級を認める。
学修支援等 （概要） 毎日「プロスペラの時間」と題したホームルームの時間を設け、学習や就職活動に関する情報提供を行っている。また、学生の希望進路の実現のために、授業後には資格試験対策や履歴書作成などのサポートを行っている。 検定試験については、学内で TOEIC IP テストやパソコン検定を開催し、学生の資格取得を奨励している。 その他にも、年 3 回の学生面談を行い、生活・学習に関する不安や進路の希望などを聞き取り、そこで得た情報を日々の指導・サポートの充実に活用している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (100%)	0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) 2025 年 3 月卒業生はなし			
(就職指導内容) 「キャリアデザイン」という授業を通して、キャリアビジョン形成・自己分析・業界分析・就職活動の進め方（履歴書作成・面接練習）などについての指導を 1 年次より行っている。また、年に 3 回学生個人面談を行い、学生の希望の進路について聞き取り、それにおうじた指導を行っている。			

企業と連携し、年 30 社ほど校内企業説明会を実施している。加えて、学生ごとに希望や適正に応じて個別で求人紹介を行っている。
(主な学修成果(資格・検定等)) 2025 年 3 月卒業生はなし
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	%
(中途退学の主な理由) 2025 年 3 月退学者はなし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年 3 回の学生面談を行い、生活・学習・進路に関する不安等の情報を把握し、職員全体で共有を行い、適切な指導・サポートが行えるよう取り組んでいる。特に学費については、支払いが困難な学生に対して別途相談の時間を取り、公的な支援制度の紹介などを行っている。退学希望者に対しては、教員が複数回面談を行い、学生とともに課題の解決の方策を検討する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務分野		専門課程商業実務関係	国際ビジネス科国際ビジネスコース	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間		1, 411 単位時間 /単位	573 単位/単位	368 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
2 年		1, 980 単位時間／単位	2, 352 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
1, 620 人		1, 611 人	1, 611 人	36 人	25 人	61 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年度、学習の到達度や就職状況、企業からのニーズなどを考慮して、学内会議にて、講義内容や授業方法の検討を行う。その検討結果にもとづき、各科目を担当する教員が年間授業計画(シラバス)の作成を行う。シラバス作成には学内統一の様式を使用し、科目名・授業の目的・教員・年間単位時間・目標・授業計画・授業方法・評価の方法等を記載する。 シラバスは 12 月～3 月に担当教員が作成し、3 月に学内で確認し承認し、その後、学校ホームページで公開する。

成績評価の基準・方法			
(概要) 学生規則の細目において、成績評価方法を規定している。 成績は学期ごとに算出する。各科目 100 点満点とし、シラバスにもとづいて、定期試験と平常点により総合的に評価する。成績は、S : 100-90 点、AA : 89-80 点、A : 79-70 点、BB : 69-60 点、B : 59-50 点、CC : 49-40 点として、学生に通知される。40 点以上を取得したものを合格とする。 不合格者には再試験等を実施し、合格基準を超えたものに C : 再試験合格の評価を与える。合格基準に満たなかったものには F : 再試験不合格の評価を与える。 また、成績評価において、G P A (Grade Point Average) を導入し、進級・卒業認定の基準として使用している。 上記の評価方法については、学生規則をオリエンテーション時に学生へ配布して説明している。			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従いつつ、人格形成と共に社会情勢に即応し国際的視野に立って、実社会に役立つ人材を養成することを目的とする。この教育目的にもとづき、下記に示す知識・技能・態度を習得していることを卒業の要件とする。 1 実社会で求められる専門分野における知識・技能を身につけている 2 国際的な視野に立ち、多様な背景を持つ人々と共同できるコミュニケーション能力を身につけている 3 「あなたがいてわたしがいる」という言葉に表される、他者を思いやり理解する態度を身につけている 上記の知識・技能・態度を身につけ、学則で定める就業年限以上在籍し、所定の単位時間以上の学習を修めた学生に対して、卒業を認定する。 また、所定の単位時間以上の学習を修め、出席率が所定の基準を超えていることを学内会議で確認した学生の進級を認める。			
学修支援等			
(概要) 毎日「プロスペラの時間」と題したホームルームの時間を設け、学習や就職活動に関する情報提供を行っている。また、学生の希望進路の実現のために、授業後には資格試験対策や履歴書作成などのサポートを行っている。 検定試験については、学内で TOEIC IP テストやパソコン検定を開催し、学生の資格取得を奨励している。 その他にも、年 3 回の学生面談を行い、生活・学習に関する不安や進路の希望などを聞き取り、そこで得た情報を日々の指導・サポートの充実に活用している。			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
60 人 (100%)	2 人 (3%)	57 人 (95%)	1 人 (1.6%)

(主な就職、業界等) 製造業、飲食サービス業、小売業など
(就職指導内容) 「キャリアデザイン」という授業を通して、キャリアビジョン形成・自己分析・業界分析・就職活動の進め方（履歴書作成・面接練習）などについての指導を1年次より行っている。また、年に3回学生個人面談を行い、学生の希望の進路について聞き取り、それにおうじた指導を行っている。 企業と連携し、年30社ほど校内企業説明会を実施している。加えて、学生ごとに希望や適正に応じて個別で求人紹介を行っている。
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語ワープロ検定試験、情報処理技能検定試験、TOEIC Listening & Reading Test、日本語能力試験
(備考)（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
971 人	38 人	3.9%
(中途退学の主な理由) 出席不良、学費未納など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年3回の学生面談を行い、生活・学習・進路に関する不安等の情報を把握し、職員全体で共有を行い、適切な指導・サポートが行えるよう取り組んでいる。特に学費については、支払いが困難な学生に対して別途相談の時間を取り、公的な支援制度の紹介などを行っている。退学希望者に対しては、教員が複数回面談を行い、学生とともに課題の解決の方策を検討する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務分野		専門課程商業実務関係	就職 スペシャリスト科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼間	882 単位時間／単位	701 単位時間 /単位	323 単位時間 /単位	103 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1, 127 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70 人		0 人	0 人	7 人	0 人	7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

(概要) 毎年度、学習の到達度や就職状況、企業からのニーズなどを考慮して、学内会議にて、講義内容や授業方法の検討を行う。その検討結果にもとづき、各科目を担当する教員が年間授業計画（シラバス）の作成を行う。シラバス作成には学内統一の様式を使用し、科目名・授業の目的・教員・年間単位時間・目標・授業計画・授業方法・評価の方法等を記載する。 シラバスは 12 月～3 月に担当教員が作成し、3 月に学内で確認し承認し、その後、学校ホームページで公開する。
成績評価の基準・方法 (概要) 学生規則の細目において、成績評価方法を規定している。 成績は学期ごとに算出する。各科目 100 点満点とし、シラバスにもとづいて、定期試験と平常点により総合的に評価する。成績は、S : 100-90 点、AA : 89-80 点、A : 79-70 点、BB : 69-60 点、B : 59-50 点、CC : 49-40 点として、学生に通知される。40 点以上を取得したものを合格とする。 不合格者には再試験等を実施し、合格基準を超えたものに C : 再試験合格の評価を与える。合格基準に満たなかったものには F : 再試験不合格の評価を与える。 また、成績評価において、G P A (Grade Point Average) を導入し、進級・卒業認定の基準として使用している。 上記の評価方法については、学生規則をオリエンテーション時に学生へ配布して説明している。
卒業・進級の認定基準 (概要) 本校は、教育基本法 の精神に則り、学校教育法 に従いつつ、人格形成と共に社会情勢に即応し国際的視野に立って、実社会に役立つ人材を養成することを目的とする。この教育目的にもとづき、下記に示す知識・技能・態度を習得していることを卒業の要件とする。 1 実社会で求められる専門分野における知識・技能を身につけている 2 国際的な視野に立ち、多様な背景を持つ人々と共同できるコミュニケーション能力を身につけている 3 「あなたがいてわたしがいる」という言葉に表される、他者を思いやり理解する態度を身につけている 上記の知識・技能・態度を身につけ、学則で定める就業年限以上在籍し、所定の単位時間以上の学習を修めた学生に対して、卒業を認定する。 また、所定の単位時間以上の学習を修め、出席率が所定の基準を超えていることを学内会議で確認した学生の進級を認める。
学修支援等 (概要) 毎日「プロスペラの時間」と題したホームルームの時間を設け、学習や就職活動に関する情報提供を行っている。また、学生の希望進路の実現のために、授業後には資格試験対策や履歴書作成などのサポートを行っている。 検定試験については、学内で TOEIC IP テストやパソコン検定を開催し、学生の資格取得を奨励している。 その他にも、年 3 回の学生面談を行い、生活・学習に関する不安や進路の希望などを聞き取り、そこで得た情報を日々の指導・サポートの充実に活用している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	1 人 (100%)
（主な就職、業界等） 製造業、飲食サービス業など			
（就職指導内容） 「キャリアデザイン」という授業を通して、キャリアビジョン形成・自己分析・業界分析・就職活動の進め方（履歴書作成・面接練習）などについての指導を1年次より行っている。また、年に3回学生個人面談を行い、学生の希望の進路について聞き取り、それにおうじた指導を行っている。 企業と連携し、年30社ほど校内企業説明会を実施している。加えて、学生ごとに希望や適正に応じて個別で求人紹介を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 日本語ワープロ検定試験、情報処理技能検定試験、TOEIC Listening & Reading Test、日本語能力試験			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1 人	1 人	100%
（中途退学の主な理由） 学費未納		
（中退防止・中退者支援のための取組） 年3回の学生面談を行い、生活・学習・進路に関する不安等の情報を把握し、職員全体で共有を行い、適切な指導・サポートが行えるよう取り組んでいる。特に学費については、支払いが困難な学生に対して別途相談の時間を取り、公的な支援制度の紹介などを行っている。退学希望者に対しては、教員が複数回面談を行い、学生とともに課題の解決の方策を検討する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務分野		専門課程商業実務関係	DX ビジネス科 DX・IT マネジメントコース	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
	昼間		1676 単位時間 /単位	843 単位時間 /単位	127 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
2 年		1,764 単位時間／単位	2,646 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
280 人		163 人	155 人	15 人	6 人	21 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年度、学習の到達度や就職状況、企業からのニーズなどを考慮して、学内会議にて、講義内容や授業方法の検討を行う。その検討結果にもとづき、各科目を担当する教員が年間授業計画（シラバス）の作成を行う。シラバス作成には学内統一の様式を使用し、科目名・授業の目的・教員・年間単位時間・目標・授業計画・授業方法・評価の方法等を記載する。 シラバスは 12 月～3 月に担当教員が作成し、3 月に学内で確認し承認し、その後、学校ホームページで公開する。
成績評価の基準・方法
（概要） 学生規則の細目において、成績評価方法を規定している。 成績は学期ごとに算出する。各科目 100 点満点とし、シラバスにもとづいて、定期試験と平常点により総合的に評価する。成績は、S：100-90 点、AA：89-80 点、A：79-70 点、BB：69-60 点、B：59-50 点、CC：49-40 点として、学生に通知される。40 点以上を取得したものを合格とする。 不合格者には再試験等を実施し、合格基準を超えたものに C：再試験合格の評価を与える。合格基準に満たなかったものには F：再試験不合格の評価を与える。 また、成績評価において、GPA（Grade Point Average）を導入し、進級・卒業認定の基準として使用している。 上記の評価方法については、学生規則をオリエンテーション時に学生へ配布して説明している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 本校は、教育基本法に則り、学校教育法に従いつつ、人格形成と共に社会情勢に即応し国際的視野に立って、実社会に役立つ人材を養成することを目的とする。この教育目的にもとづき、下記に示す知識・技能・態度を習得していることを卒業の要件とする。 1 実社会で求められる専門分野における知識・技能を身につけている 2 国際的な視野に立ち、多様な背景を持つ人々と共同できるコミュニケーション能力を身につけている 3 「あなたがいてわたしがいる」という言葉に表される、他者を思いやり理解する態度を身につけている 上記の知識・技能・態度を身につけ、学則で定める就業年限以上在籍し、所定の単位

時間以上の学習を修めた学生に対して、卒業を認定する。 また、所定の単位時間以上の学習を修め、出席率が所定の基準を超えていることを学内会議で確認した学生の進級を認める。
学修支援等 (概要) 毎日「プロスペラの時間」と題したホームルームの時間を設け、学習や就職活動に関する情報提供を行っている。また、学生の希望進路の実現のために、授業後には資格試験対策や履歴書作成などのサポートを行っている。 検定試験については、学内で TOEIC IP テストやパソコン検定を開催し、学生の資格取得を奨励している。 その他にも、年 3 回の学生面談を行い、生活・学習に関する不安や進路の希望などを聞き取り、そこで得た情報を日々の指導・サポートの充実に活用している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	5 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 小売業、物流、ホテルなど			
(就職指導内容) 「キャリアデザイン」という授業を通して、キャリアビジョン形成・自己分析・業界分析・就職活動の進め方（履歴書作成・面接練習）などについての指導を 1 年次より行っている。また、年に 3 回学生個人面談を行い、学生の希望の進路について聞き取り、それにおうじた指導を行っている。 企業と連携し、年 30 社ほど校内企業説明会を実施している。加えて、学生ごとに希望や適正に応じて個別で求人紹介を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 日本語ワープロ検定試験、情報処理技能検定試験、TOEIC Listening & Reading Test、日本語能力試験			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
6 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由) 出席不良、学費未納など		

（中退防止・中退者支援のための取組）

年３回の学生面談を行い、生活・学習・進路に関する不安等の情報を把握し、職員全体で共有を行い、適切な指導・サポートが行えるよう取り組んでいる。特に学費については、支払いが困難な学生に対して別途相談の時間を取り、公的な支援制度の紹介などを行っている。退学希望者に対しては、教員が複数回面談を行い、学生とともに課題の解決の方策を検討する。

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考(任意記載事項)
国際ビジネス科	150,000 円	680,000 円	220,000 円	その他内訳(施設維持費, 実習教材費, 教科書・行事費)
外語キャリア科	150,000 円	643,000 円	200,000 円	その他内訳(施設維持費, 実習教材費, 教科書・行事費)
就職スペシャリスト(1 年制) 科	150,000 円	760,000 円	220,000 円	その他内訳(施設維持費, 実習教材費, 教科書・行事費)
DX ビジネス(2 年制) 科※留学生	150,000 円	760,000 円	220,000 円	その他内訳(施設維持費, 実習教材費, 教科書・行事費)
DX ビジネス(2 年制) 科※日本人	250,000 円	920,000 円	220,000 円	その他内訳(施設維持費, 実習教材費, 教科書・行事費)
修学支援(任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://prospera.ac.jp/public-information/		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制)		
学校関係者評価は、学校が設定した評価項目の達成及び取り組み状況を点検する。評価項目は、教育理念・教育目標、学校運営、教育活動、学習成果、学生支援、教育環境、学生募集、財務、法令順守、社会貢献の 10 項目からなる。学校関係者評価委員は定数を 4 名とし、卒業生・企業関係者等から選出される。学校関係者評価の結果をもとに、各項目について、評価を受けてからすみやかに学校長を責任者として改善策を報告書としてまとめ、教育活動・学校運営の質向上を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公認会計士	R7.4～R9.3	企業
株式会社 役員	R7.4～R9.3	企業
株式会社 従業員	R7.4～R9.3	卒業生

株式会社 従業員	R7.4～R9.3	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://prospera.ac.jp/public-information/		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://prospera.ac.jp/public-information/
--